

1 社会・治安情勢

- (1) 2017年11月に実施された大統領選後、開票プロセス等をめぐって全国各地で大規模なデモや道路封鎖が実施され、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。
- (2) 4月末から6月末まで、教育・保健システム転換・再構築法案の反対や関連法案の廃止を求めた教育・医療従事者によるストライキやデモ・道路封鎖等の抗議活動、大型貨物の料金所通行料金の値下げを要求した運送業従事者による全国規模の道路封鎖等が頻繁に実施され、一部参加者が、警察部隊への投石、公共施設等への放火や襲撃、商店等に対する略奪行為が行われるなど暴徒化し、死傷者も発生した。
- (3) 6月中旬には、警察官の処遇改善を求め、国家警察の一部警察官によるストライキが発生した。
- (4) 9月上旬には、首都テグシガルパ市エルアティージョ地区への新たな居住区の建設反対をめぐるデモ・道路封鎖等の抗議活動が、ラティグラ国立公園に通ずる道路で実施された。
- (5) 現在、上記関連のデモは沈静化しているものの、今後、新交通法の制定、選挙法の改定等、一部の国民の反発を受けて、再度、デモが活発化する可能性は否定できない
- (6) 昨今では、学生活動家グループ（※特にホンジュラス国立自治大学（UNAH）グループ）が他の活動等に便乗してデモを実施し、タイヤ、投石する等暴徒化している。昨年11月には、同大学学生活動家グループが、付近のハンバーガーショップを襲撃し、火焰瓶で店内の一部を燃焼させた。昨年12月にも、同じく同大学前において、通行中の公共バスを襲撃し、バス3台を完全に燃焼させるなどした。また、4月以降のデモや道路封鎖でも、公共施設等への放火や襲撃等の多くが、同学生活動家グループが関係していると報じられている。

(7) 引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報（領事メール等）をチェックするなど注意を要する。

2 一般犯罪，凶悪犯罪の傾向

(1) ホンジュラス国立自治大学暴力研究所（OV-UNAH）によると，2018年中の殺人事件発生件数は，3,733件（前年比-133件），10万人当たりの殺人死者数（以下，「殺人率」と称す）は41.4人（同-2.2人）と引き続き減少傾向にある。しかし，当国の殺人率は，中南米・カリブ諸国21ヶ国中4番目に悪く，依然として高い水準であることに変わりはない。

(2) 国家警察犯罪統計局（SEPOL）によると，2019年1月から9月までの殺人事件による被害者数は2,845人（前年同期比+79人）（注：10月1日現在）で，前年と比較し増加傾向にある。

(3) 殺人事件の約70%は銃器を使用したものであり，また，約40%が午後6時頃から午前0時までの夜間に発生している。

(4) みかじめ料の支払いを拒否したことによる，犯罪組織からの報復と考えられるバス，タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人，銃撃，放火事件も引き続き発生しており，「ラピディート」と呼ばれるマイクロバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず，安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。

(5) 銃器を使用した強盗事件も，引き続き首都圏全般で発生しており，徒歩での移動も極力避け，車両での移動を勧めている。

(6) 2018年中の窃盗・強盗事件は，14,384件（前年比+2,193件）で，1日平均約65件発生している。警察に届出る文化も根付いていないことから，数値以上に発生していると思料される。

(7) コカイン，マリファナが大量押収されるケースは続いており，東部密林地帯

等で薬物精製所，密輸用滑走路も発見されていることから，当国が，他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていない。最近では，国内でマリファナ等の栽培も確認，摘発されている。

3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

(1) 邦人の被害事案

特になし。

(2) 邦人以外の被害事件

ア 7月1日午後，コルテス県サンペドロスーラ市内において，エルカルメン～セントロ間を走行中のバスに乗車していた男性が銃で殺害された。

イ 7月4日，コルテス県サンペドロスーラ市内において，警察の制服を着用した男8人組が雑貨店に押し入り，女性を銃で殺害した。

ウ 7月6日，コルテス県チョロマ市において，犯罪組織同士の抗争から銃撃戦が発生し，男性2名が死亡し，2名が負傷した。

エ 7月12日午後，テグシガルパ市スヤパ通りを走行中のタクシーに乗車した女性2名が車内で金品を強取され，1名は車内から飛び降り重傷，もう1名はその後解放された。

オ 7月19日午後，テグシガルパ市フエルサスアルマーダス通りを走行中のラピディートが襲撃され，運転手が死亡，乗客5名が負傷した。

カ 7月19日午後，コルテス県サンペドロスーラ市において，サンペドロスーラ～ラリマ間を走行中のラピディート運転手が，乗客を装い乗車していた犯人に銃で撃たれ死亡した。

キ 7月20日，テグシガルパ市コマヤグエラ地区を走行中のセログランデ～ラソサ間のラピディート内において，乗客1名が，乗客を装い乗車してきた強盗犯人に銃で撃たれ死亡した。

ク 7月29日、テグシガルパ市コマヤグエラ地区を走行中のカリサル〜ラソサ間のラピディートが襲撃され、運転手が負傷した。

ケ 7月28日早朝、テグシガルパ市モラサン通りのガソリンスタンドで、犯罪組織同士の抗争と見られる銃撃戦が発生した。

コ 8月21日早朝、コルテス県サンペドロスーラ市において、サンペドロスーラ〜プエルトコルテス間のバスが犯罪組織に乗っ取られ、放火された。みかじめ料支払い拒否による脅迫と見られている。

サ 9月2日、テグシガルパ市コマヤグエラ地区を走行中のシウダエスパーニャ〜メルカド間のラピディートが襲撃され、集金人男性が死亡、乗客1人も重体を負った。

シ 9月12日夜、テグシガルパ市コマヤグエラ地区の飲食店で食事をしていた男性が、店内に押し入った強盗犯に銃で撃たれ死亡した。

ス 9月25日午前、コルテス県サンペドロスーラ市において、交通渋滞で渋滞中の車を追い越そうとした車に、道を譲らなかった車の運転手が、追い越そうとした車の運転手に銃で撃たれ死亡した。また、同乗者2名も被弾し負傷した。

(3) 参考事件

8月17日、テグシガルパ市の国立スタジアムで、開催予定であったサッカーのリーグ戦（前期第5節モタグア（MOTAGUA）対オリンピア（OLIMPIA）試合前に、選手やチーム関係者が乗車していたバスが襲撃され、選手等3名が負傷した事案に端を発し、国立スタジアム内外で死者4名及び負傷者10名を伴う暴動が発生した。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

- (1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。
- (2) 危険度2地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。
- (3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。